

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小71) 長崎市立(為石小)学校

1 教育目標

ためし 最高!～地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども～

2 学校経営方針

諸法令等に則り、日々の教育活動を省察・改善し、児童に確かな学力を身に付けさせることを通して、正しい生活及び学習の習慣と正しい人権意識や協働精神を身に付けた児童を育成する目標を、「学校・家庭・地域が共有・実践し、自他に誇れる校風を醸成する。」

3 重点目標

- ・「確かな学力」の向上をめざす
- ・健やかな心と体を育成する
- ・家庭・学校・地域の連携により教育の充実を図る
- ・安全・安心に学べる教育環境を整備する

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	89	98	100	学校の雰囲気が明るく楽しいと答えた児童が9割以上であった。しかも、学校目標の達成に向けて、授業や行事をめあてをもって参加している児童が8割以上であった。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	96	99	93	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			86	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	93	64	「ルールやマナーを身に付けている」は、児童・保護者と教職員の評価に大きな差が見られた。要求水準の差だと考えられるが、できるようになって欲しいという期待が込められているのではないかと。「いじめ防止」「人権尊重」「平和の大切さ」「教育的ニーズに応じた指導」はどれも95%以上の肯定的評価だった。これからも取組を続けなければならない。
		挨拶をよくしている	95	81	86	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	90	97	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	97	94	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	99	89	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97	89	86	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	97	89	86	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	99	98	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95	94	100	「わかりやすい授業」については、児童の殆どが肯定的評価だった。しかし、「家庭学習の習慣化」においては、児童と教職員との間で意識の差が見られる。この差を埋める取組が必要であろう。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	99	96	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	92	87	77	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	84	92	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		97				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	98	94	100	引き続き学校では衛生管理や健康維持には十分配慮している。しかし、ゲーム時間の長さ、睡眠時間の確保等が不十分な児童が見られる。児童や保護者はあまり危機意識をもっていない。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	83	86	86	
		体力向上に努めている	88	89	93	
	食育	食に関する教育活動を行っている	98	96	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	99	93	100	創立150周年に関する取組を通して、地域・家庭と学校の結びつきの強さを感じるとともに、三者の連携の必要性が明らかになった。学校ホームページや通信アプリの利用が保護者や地域の方々の中に広がっている。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	99	90	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	99	90	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	96	94	86	校舎内外の古い物や使わなくなった物を片づけたり廃棄したりすることで、安全・安心に学べる環境が整備できた。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			93	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

全児童119名の保護者に対して、90名からの回答があり回答率は75.6%であった。その大半が肯定的な意見を占めていた。保護者の意見として、ポイントが低い項目は「友達や家族、近所の人にあいさつをしている」81%、「早寝早起き朝ごはんの習慣が身に付いている」85%、「家庭学習の習慣が身に付いている」86%だった。学校の取組とあわせて、各家庭での子育てについて振り返る機会になったのではないかと感じる。

児童評価は全体的に高く、肯定的割合が非常に高い。とくに、心の教育や信頼される学校の項目で高評価であった。児童が教職員を信頼して学校生活を送っていることが伺える。教職員アンケートでは、「ルールやマナーの定着」や「家庭学習の習慣化」という課題が昨年度に引き続き顕在化した。今後、全職員の共通理解のもと、これらの改善に取り組んでいかなければならない。

昨年度と比べてポイントが上がったものとして、保護者の意見では、いじめ防止対策73%→89%、自立に向けた指導70%→92%、児童の安全管理63%→93%等、学校の児童への働きかけが保護者に伝わっていることが伺える。教職員の意見では、業務改善69%→100%、研修の充実86%→100%、教育環境の整備57%→86%等、働き甲斐のある職場に近づいていることが感じられる。

6 学校関係者評価

- ・教職員の自己評価が高いのがすばらしい。
- ・ある項目だけでなく、すべての項目で伸びが見られるのは良いと思う。
- ・保護者の肯定的な意見が多いのは、学校の考え方や取組が広く伝わっているからだと思う。
- ・授業を参観したが、子どもたちの学ぶ姿が生き生きとしていた。日頃の先生方の指導の成果だと感じた。
- ・子どもたちが自ら考え、授業に臨んでいる様子が見られた。
- ・地域の方は、労いの思いをもって学校の動向をよく見ている。
- ・学童保育の学校との連携がさらに深まり、児童の安心安全な居場所づくりになっている。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・保護者への働きかけを継続していく。連携と連絡の違いなど保護者に意識を変えてもらう必要がある。
- ・「児童のルールやマナーを身に付ける」は校内での生活指導を中心に、規範意識を高めるための手立てを講じていく必要がある。
- ・コロナ禍で中止になっていた地域行事などは、今後無理なく続けていけるのかという視点で見直す作業が欠かせない。